

エコアクション21 環境活動レポート

運用期間 2016年9月～2017年8月



kane3
.com 株式会社 カネミツ

2017年10月発行

目 次

1 事業概要	1 p
2 許可内容	2 p
3 環境方針	3 p
4 実施体制	4 p
5 環境目標	5 p
6 環境活動計画	6 p
7 環境目標の実績	7 p
8 環境活動計画の取組結果と次年度の取組内容	8 p
9 環境関連法規	9 p
10 代表者による総合評価と見直し	10 p

1.事業概要

1 事業所名

株式会社カネミツ

2 代表者名

代表取締役 金光照男

3 所在地

山口県宇部市港町1丁目6番21号

電話 0836-21-5691 fax 0836-33-4655

4 環境管理責任者及び担当者氏名・連絡先

環境管理責任者 金光 優稀 0836-21-5691

5 会社沿革

1997年2月3日 有限会社 カネミツ 法人設立

2012年2月1日 株式会社 カネミツ 商号変更による設立

2013年5月15日 資本金を1,000万円に増資

6 事業の内容

鉄・非鉄金属資源のリサイクル業(仕入及び販売)

7 事業規模

資本金	1,000万円	
従業員数	14名	
売上高	1,960百万円	(2016年9月～2017年8月)
出荷量	6,375t	(2016年9月～2017年8月)
敷地面積	1,371㎡	

8 車両・設備

大型トラック	3台	2tトラック	1台
軽四	1台	普通車	3台
ユンボ	2台	フォークリフト	3台
プレス機	1基	シャーリング	2基
剥線機	1基	ナゲット	1基
金属分析器	1台		

9 認証・登録の範囲(テナントビル部門を除く全組織・全活動)

(1) 対象事業所	金属リサイクル業部門
対象活動	鉄・非鉄金属の買取および販売

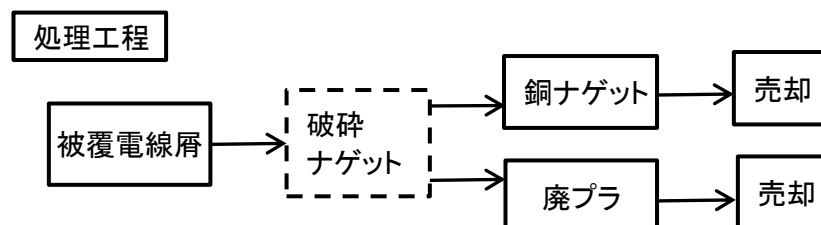
2.許可内容

産業廃棄物収集運搬業許可証

許可番号	第03516080129号
有効年月日	2021年10月16日
産業廃棄物の種類	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く)・ 陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。以上3種類)、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、がれき類 (これらは石綿含有産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。) 以上8種類
積替え保管場所	所在地 山口県宇部市港町1丁目6番3、6番4、6番5 面積 260㎡ 種類 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く) ・陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。以上3種類)、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、がれき類 保管上限 13m ³ 高さ 屋内保管

産業廃棄物処分業許可証

許可番号	第03526080129号
有効年月日	2020年3月2日
事業の区分	中間処理(破砕)
産業廃棄物の種類	破砕:廃プラスチック類、金属くず、(自動車等破砕物を除く。以上2種類) (特別管理産業廃棄物であるものを除く。)以上2種類
事業用施設	破砕 設置場所 山口県宇部市港町1丁目6番7号 設置年月日 1996年5月15日 処理能力 0.8t/日(8時間) 処理方式 ナゲット処理 処理実績 19,312kg 平成23年度



3.環境方針

基本理念

国内の産業・経済の発展とともに、また発展途上国のさらなる発展に伴い、金属資源の需要もますます増大して
います。当社は、限りある金属資源のリサイクル活動を通じ、省エネルギーかつ資源の有効利用の循環型エ
ネルギー社会をめざし、社会貢献できるよう事業活動をおこないます。

行動指針

省エネルギーに基づき、必要な環境経営システムを構築・運用し、環境負荷の低減を推進します。
また継続的にこれらを行うために環境目標及び活動計画を以下に定め 定期的な見直しを実施します

1. 二酸化炭素排出削減

- 使用エネルギー（電気、化石燃料）の削減に努めます。
- ・収集運搬車の効率的な配車・運行に取り組みます。
- ・重機機材・作業機材の効率的な使用に取り組みます。
- ・事務所内の不要電気の排除に取り組みます。

2. 廃棄物の削減

- ・産業廃棄物の適正処理をおこないます。
- ・産業廃棄物の徹底した分別を行い、更なる有価物化に努めます。

3. 水使用量の削減

- ・節水に努め、水使用量の削減に取り組みます。

4. グリーン購入を積極的に推進します。

5. リサイクル品の量的拡大を図ります。

6. 事業活動に関連する環境関連法規等を遵守いたします。

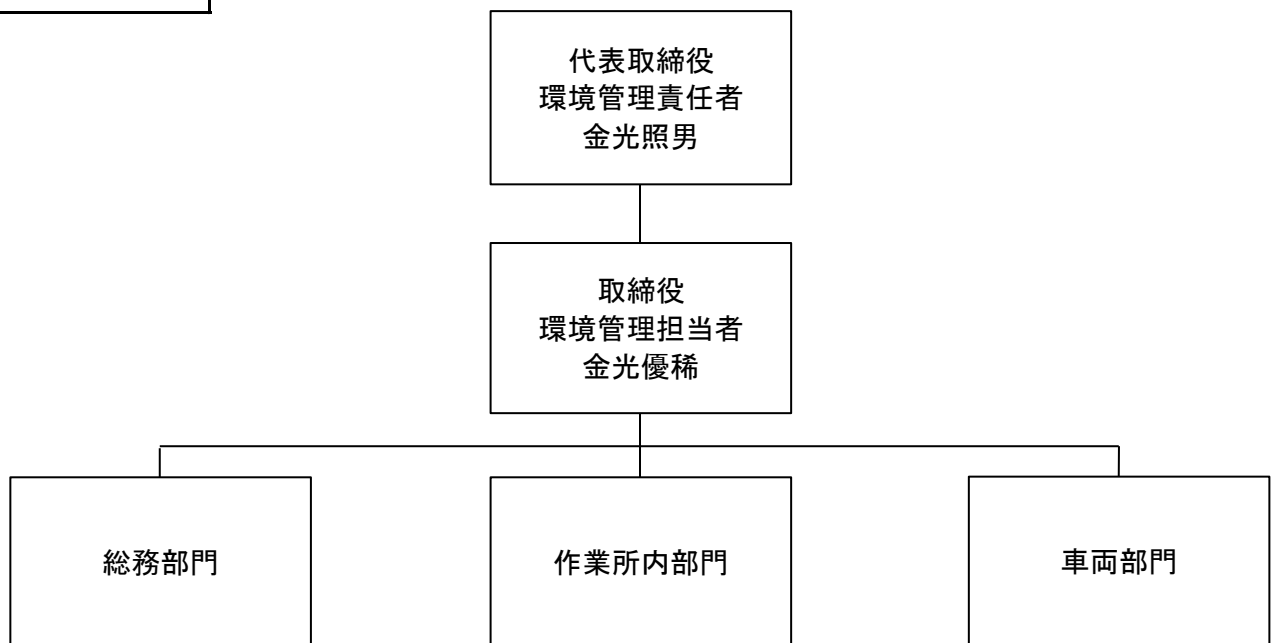
7. この環境方針は、社員全員に周知するとともに、社外へ公表します。

2013年10月21日

株式会社 カネミツ

代表取締役 金光 照男

4.EA21実施体制



5.環境目標

環境目標		単位	基準年度	目標		
			平成23/9-24/8	平成27/9-28/8	平成28/9-29/8	平成29/9-30/8
1	二酸化炭素排出量 /出荷額 の削減	kg-CO2/ 百万円	157.7	149.81以下 5%	149.81以下 5%	149.81以下 5%
	電力使用量 /出荷額 の削減	kwh/百万円	54.3	51.58以下 5%	51.58以下 5%	51.58以下 5%
	ガソリン使用量 /出荷額 の削減	ℓ/百万円	3.27	3.10以下 5%	3.10以下 5%	3.10以下 5%
	軽油使用量(車両) /出荷額 の削減	ℓ/百万円	40.9	38.85以下 5%	38.85以下 5%	38.85以下 5%
	軽油使用量(重機) /出荷額 の削減	ℓ/百万円	14.86	14.11以下 5%	14.11以下 5%	14.11以下 5%
2	使用水量/出荷額 の削減	m ³ /百万円	0.71	0.67以下 5%	0.67以下 5%	0.67以下 5%
3	廃棄物総排出量 /出荷額 の削減	kg/百万円	0.26	0.23以下 5%	0.23以下 5%	0.23以下 5%
4	鉄・非鉄金属の仕入額 の増加	百万円	1152	1209.60以上 5%	1209.60以上 5%	1209.60以上 5%
5	グリーン購入の推進	切替品目数	0	3	3	3

注1. 電気使用量の排出係数は、中国電力の平成27年度の0.700(CO2 kg/KWh)を使用した。

注2. PRTR対象化学物質を使用していないので、化学物質使用量の削減目標は掲げません。

6.環境活動計画

目標項目	取 組
電力使用量の削減	エアコン温度設定(夏28℃冬20℃)
	不要電燈をこまめに消灯
	省エネ家電(パソコン・コピー機)推進
ガソリン使用量の削減	急加速しない
	タイヤ空気圧チェック
	エンジンブレーキの多用
	アイドリングストップ
	エアコンの使用を控える
軽油(車両)使用量の削減	急加速しない
	タイヤ空気圧チェック
	エンジンブレーキの多用
	アイドリングストップ
	作業中のエンジンストップ
	エアコンの使用を控える
軽油(重機)使用量の削減	重機から長時間離れるときエンジンオフ
	不要な機械の電源をオフ
	エアコン設定温度を決め実行
水使用量の削減	洗車時の節水
	日常の節水
	水漏れ確認
廃棄物総排出量の削減	使用済み紙の裏面利用
	ペーパーレス化への取組
	生ごみ減量への取組
鉄・非鉄金属の仕入額の増加	新規取引先の開拓
	情報収集の強化
グリーン購入の推進	グリーン商品への知識の習得
	グリーン商品の積極購入

7.環境目標の実績

環境目標	単位	平成23/9～平成24年/8月 (基準年度)	2016/9-2017/8月		判定
			目標	実績	
(二酸化炭素排出量)	(kg-CO2)	187189	241174	165351.00	
二酸化炭素排出量 /出荷額 の削減	kg-CO2/ 百万円	157.7	149.81以下 5%	84.36	○
1 電力使用量 /出荷額 の削減	kwh/百万円	54.3	51.58以下 5%	25.67	○
2 ガソリン使用量 /出荷額 の削減	ℓ/百万円	3.27	3.10以下 5%	4.38	×
3 軽油使用量(車両) /出荷額 の削減	ℓ/百万円	40.9	38.85以下 5%	15.31	○
4 軽油使用量(重機) /出荷額 の削減	ℓ/百万円	14.86	14.11以下 5%	6.12	○
2 使用水量/出荷額 の削減	m ³ /百万円	0.71	0.67以下 5%	0.05	○
3 廃棄物総排出量 /出荷額 の削減	kg/百万円	0.26	0.23以下 5%	0.19	○
4 鉄・非鉄金属の仕入額 の増加	百万円	1,152	1209.6以上 5%	1,843	○
5 グリーン購入の推進	切替品目数	0	3以上	0	×

8.環境活動計画の取組結果と次年度の取組内容

二酸化炭素排出量/出荷額 の削減： 目標達成

前年度比で出荷額が増加した一方で、二酸化炭素排出量が減少したことにより、目標達成できた。次年度でも出荷額を現水準に維持して目標達成を目指したい。

電力使用量/出荷額 の削減： 目標達成

前年度比で電力使用量は増加したが、出荷額も増加したため目標達成となった。次年度では電力使用量を抑えるように取り組みたい。

ガソリン使用量/出荷額 の削減： 目標未達成

前年度比ではガソリン使用量は減少したが、目標達成の水準までには至らなかった。今後は、営業車の低燃費車への切り替えや、ガソリンを使用しているフォークリフトのディーゼル車への切り替えを検討している。

軽油使用量(車両)/出荷額 の削減： 目標達成

車両の軽油使用量については、運送会社への外注などの効果もあり、年々減少傾向にある。今後は、外注した場合の運送費と自社便でのコストを比較し、後者の方がメリットが大きい場合、自社便の稼働を増やすことになるため、使用量は増加する可能性もある。

軽油使用量(重機)/出荷額 の削減： 目標達成

重機の軽油使用量は前年比で微増となったが、出荷額増加の影響もあり目標達成となった。今後も現水準の維持を目指したい。

使用水量/出荷額 の削減： 目標達成

使用水量については、ほぼ前年度と同量で目標達成となった。現状の水道の使用用途が掃除やトイレでの使用のみのため、節水を心がけて現水準を維持したい。

廃棄物総排出量/出荷額 の削減： 目標達成

廃棄物総排出量については、昨年度よりも微減し計画達成した。今後は、現状は一般廃棄物のみ排出しているが、今後は中国環境規制強化の影響により、銅線の被覆などのこれまで有価で販売していた廃プラスチックが産業廃棄物となる可能性が高いため、廃棄物総排出量が増加してしまう懸念がある。

鉄・非鉄金属の仕入額の増加： 目標達成

金属相場やメーカー需要回復の影響を受け、目標達成した。今後は、2015年期的水準まで回復させたい。

グリーン購入の推進： 目標未達成

社内の消耗品類は一通りグリーン購入品への切り替えが完了しているため、今後更にグリーン購入を増やすのは障壁が高いが、営業車やトラックの今後の更新時にはグリーン購入を検討している。

9.環境関連法規

環境関連法の遵守状況をチェックの結果過去3年間違反はありませんでした

尚 関係当局よりの違反の指摘 利害関係者からの訴訟等ありませんでした

10.代表者による総合評価と見直し

今年度の環境活動の結果については、前年度と比較して売上・仕入共に増加したため、全般的に前年度比で良い結果が得られた。

当社の場合、金属スクラップのリサイクルを行うという事業活動が直接環境活動へと繋がるものであるが、事業規模を拡大する過程でCO2排出量も増えてしまうというジレンマも存在する。

そのため、CO2を抑制しつつ、事業も継続していくバランスが求められると考えている。

また、昨今では隣国での環境規制強化等の動きがあり、日本国内におけるリサイクル業界へも少なからず影響が出てくると思われる。

以上の状況を鑑み、今後とも環境関連法令を遵守し、金属リサイクルの受け入れを継続することにより、循環型リサイクル社会への貢献をし、環境保全へと全社体制で推進していく所存である。